

「～てくれる」系と「～てもらおう」系に関する一考察

—単文・重文・複文における互換性を中心に—

朱炫姝（筑波大学大学院生）

要 旨

本稿は日本語授受表現「～てくれる」系と「～てもらおう」系が構文論上対称的な構造を持つことに着目し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの例文を用いて、両表現の互換性を取り扱ったものである。「XがYにVてくれる」文と「YがXにVてもらおう」文で分かるように両表現において言い換えができるように見えるが実際の例を見ると次の3つのパターンがあることが分かった：①互換性のある場合（言い換えても文法的かつ語用論的に問題がない場合）、②互換性がない場合Ⅰ（文法的には適格だが、語用論上事態の意味合いが異なる場合）、③互換性がない場合Ⅱ（文法的・語用論的に言い換えが不可能である場合）。さらに、両表現が<依頼・命令><感謝><謝罪><有情物対象><無情物対象>の発話場面において互換性の差異が見られた。

キーワード：「～てくれる」系、「～てもらおう」系、文構造、互換性

1. はじめに

本稿は、日本語授受補助動詞「～てくれる・くださる（以下、「～てくれる」系）」と「～てもらおう・いただく（以下、「～てもらおう」系）」において、ある事態を述べる際、言い換えが可能であるかどうかを分析することで、両表現の発話機能における使い方を明らかにするものである。

- (1) a. 友だちが写真を撮った。
- b. 友だちが写真を撮ってくれた。
- c. 友だちに写真を撮ってもらった。

（例(1)は筆者による作例）

例(1a)の事態に、話し手自身(受け手)の視点を導入すると、例(1b)(1c)のように授受補助動詞を用いて言い表せることができるが、「写真を撮る」の動作主である「友だち」を例(1b)では主格に、例(1c)では与格に位置させている点が異なる。同じ事態に対して「対称的に表現している(堀口 1987:59)」と言えるが、本稿ではこのように言い換えが可能なケース、つまり互換性があるケースと互換性がないケースを中心に分析を行う。次の例(2)は互換性のない例である。

- (2)a. 留学生にとっても日本人学生にとっても、自然が教えてくれる異文化体験だった
- b.*留学生にとっても日本人学生にとっても、自然に教えてもらおう異文化体験だった。

（例(2a)は『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下、BCCWJ)』)

例(2a)では授受表現「～てくれる」系が「異文化体験」の修飾節として使用されているが、例(2b)で「～てもらおう」系に置き換えた場合には不自然な文となる。「自然が異文化体験を教える」という事態に対し、例(1)とは異なり、「～てくれる」系と「～てもらおう」系

の言い換えができない要因について探る必要があると思われる。

したがって、本稿では「～てくれる」系と「～てもらう」系における互換性について分析し、両表現の使用における共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究の分析と本稿のアプローチ

2.1. 「～てくれる」系と「～てもらう」系を比較考察した先行研究

「～てくれる」系と「～てもらう」系を比較考察した研究の中、構造の面から考察した研究は堀口(1987)がある。堀口(1987)では両表現の構造とムード的意味の相違点について述べており、主格名詞句と与格名詞句を持つ構造を持つと述べている。またムード的意味における相違点について、本動詞用法としての「くれる」系と「もらう」系を比較し、置き換えが可能かどうかという問題について、「伝えているコトの意味が同じであるか、非文ではないか、文脈の中で適切であるか(ibid.:71)」の要因を手がかりとしている。

両表現を配慮意識の面から分析した研究には熊田(2001)、山田(2002)、金澤(2007)、石山(2008)がある。熊田(2001)では、「発話の場における恩恵の与え手の在・不在」において分析の枠組みとして提示しているが、これが原因となるいくつかの用例があったと述べてはいるものの、その使い分けにおける影響については分析がなされていない点が指摘できる。

また、山田(2002)は「日本語では動作主を主語におかない方が動作主に対する敬意を表しやすい(ibid.:49)」と述べ、「～てもらう」が「～てくれる」より「動作主に対する待遇上の配慮が強く感じられる(ibid.)」と説明している。さらに、金澤(2007)は、各表現の敬語形態である「～てくださる」と「～ていただく」の間、話し言葉の実例から、「～ていただく」の方が高い割合で使用されていることを確認した。また、その要因について、「相手となるべく直接的な関わりを持たない形で人間関係を維持してゆきたいというミーイズム⁽¹⁾の心理(ibid.:50)」が、作用されると述べている。つまり、「～ていただく」が選択される理由として、話し手中心の言語表現が好まれるためであると分析している。

一方、石山(2008)では、「『～てくれる』よりも『～てもらう』の方が包括的により丁寧であると断ずるだけの理論的根拠はないように思われる(ibid.:41)」と述べているが、筆者はこのような考えに賛同し、「丁寧」であるかどうかの判断⁽²⁾は状況と個人の判断によるものであるため、一概には言えないと考える。それ以前に、「～てくれる」系と「～てもらう」系が当該状況においてどのような役割を果たすのかに、その要因があると思われる。

本稿では、授受補助動詞の構造と働きにおける「～てくれる」系と「～てもらう」系の使用を考察することで、両表現の使い分けをさらに明確にすることが期待できる。

2.2. 本稿のアプローチ

まず本稿では「～てくれる」系と「～てもらう」系が使用される文の構造を把握する。両表現は単文、重文、複文のレベルでそれぞれ使用されていることが分った。単文は(1b)(1c)のように、文に一つの述語のみ表れるが、その述語に授受表現が表れる文を対象とする。重文は、「カレーを作ってくれて、ありがとう」のように、単文を2つ以上並列される場合であるが、述語に「～てくれる」系もしくは「～てもらう」系が表れる文を分析する。最

後に、複文では(2a)のように名詞修飾節に用いられる文、「代わりに行ってくれと頼んだ」など引用節に用いられる文を研究対象とする。

以上の文構造を中心に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のオンライン検索システムを活用し、「～てくれる」系と「～てもらう」系の用例を収集する。次に、各用例を単文、重文、複文に区分し、両表現の互換性の有無を確認する。

本稿における互換性とは、「～てくれる」系と「～てもらう」系を入れ替えても同じ事態を表しているかどうかで判断する。この際、格情報については主格と与格の情報が明示されている場合には機械的に入れ替えることを基本とし、省略された情報は省略されたまま復元しない条件で言い換えができるかどうかを分析する。互換性の分析において以下のような類が想定される。

(3) 互換性のある用例

- a. 友だちが写真を撮ってくれた。
- b. 友だちに写真を撮ってもらった。

(例(3a)は(1b)を再掲、(3b)は(1c)を再掲)

(4) 互換性のない用例

①文法的に適格文ではあるが、事態の意味合いが異なる文(記号「#」で示す)

- a. ちょっと調べさせていただきます。
- b.#ちょっと調べさせていただきます。

(例(4①a)は『BCCWJ』)

②文法的に非文であり、言い換え文が不可能である文(記号「*」で示す)

- a. すごくつらく、苦しかったけど、本当のことを教えてくれてありがとう。
- b.*すごくつらく、苦しかったけど、本当のことを教えてもらってありがとう。

(例(4②a)は『BCCWJ』)

3. 「～てくれる」系と「～てもらう」系における互換性

3.1. 単文レベルにおける「～てくれる」系と「～てもらう」系

単文では述語が一つしか表れないが、「～てくれる」系と「～てもらう」系の言い換えが可能な例として、以下の例(5)が挙げられる。

(5)単文レベルにおける互換性のある用例

- a. 写真は先日主人が作ってくれた。
- b. 写真は先日主人に作ってもらった。

(例(5a)は『BCCWJ』)

例(5)を見ると、「先日主人が写真を作った」という事態については(5a)(5b)で共通的に述べられており、このようにある出来事を叙述する<演述>の発話機能においては互換性を有する。一方、例(6)のような例では両表現の相違点が見受けられる。

(6)単文レベルにおける互換性のない用例

- ①a. 明日から京都に行ってもらおう。(筆者注：話し手は上司、聞き手は部下)
- b.#明日から京都に行ってくれる。
- c. 発表させていただきます。(筆者注：発表を始める直前の発言)

- d.#発表させていただきます。
- ②a. その問題を私に詳しく説明してくれませんか。
b.*その問題を私が詳しく説明してもらいませんか。
c. よくもいきなりやってくれたわねっ！
d.*よくもいきなりやってもらったわねっ！

(例(6①a)(6①c)(6②a)(6②c)は『BCCWJ』)

(6①a)は<依頼・命令>の発話機能の中でも当為性が強く、業務命令として働いているが、言い換え文の(6①b)は<依頼・命令>の意ではなく、<演述>として働くことが分かる((6①a)と同じく下降イントネーションに限る)。また、本動詞の使役型と「～てもらう」系の共起では、話し手の<宣言>を表すが、このような使い方は「～てくれる」系では出現せず、<演述>として相手の行動を描写する際に用いられる。次に、(6②a)の<依頼・命令>の意を「～てもらう」系で表すためには「説明してもらえませんか」と可能形を加えなければならない。既に遂行されている事態に対する<非難表明>の意味を持つ(6②c)の「～てくれる」系は、「～てもらう」系とは互換性を持たないことが分った。それは、非難の相手となる人物が「～てくれる」系では視点の特徴上、動作主と主格で一致するが、「～てもらう」系では話し手自身が主格となるため、聞き手への非難の意としては用いることができないためと思われる。

3.2. 重文レベルにおける「～てくれる」系と「～てもらう」系

(7a)では「～てくれる」系と「～てもらう」系の敬語形式である「～てくださる」文「～ていただく」文が感謝の気持ちを表す「ありがとうございました」と共起しており、両表現の互換性が伺える。

(7)重文レベルにおける互換性のある用例

- a. 来てくださってありがとうございました。
b. 来ていただいてありがとうございました。

(例(7a)(7b)は『BCCWJ』)

しかし、普通体の「～てくれる」文「～てもらう」文と感謝表現との共起関係は大きく差があったが、(8②)の例を挙げながら説明する⁽³⁾。

(8)重文レベルにおける互換性のない用例

- ①a. 20段ほど石段を降りて、右に曲がっていただくと露天風呂がございます。
b.#20段ほど石段を降りて、右に曲がってくださると露天風呂がございます。
②a. すぐくつらく、苦しかったけど、本当のことを教えてくれてありがとう。
b.*すぐくつらく、苦しかったけど、本当のことを教えてもらってありがとう。

(例(8①a)は『BCCWJ』、例(8②)は例(4②)を再掲)

先に(8②)を見ると、「～てくれる」文と感謝表現「ありがとう」は共起するが、言い換え文にした「～てもらう」文は不自然な文となる。その要因について「～てくれる」文と「～てもらう」文は感謝表現との共起関係において相違点があることが挙げられる。(7b)の「～ていただく」文のほうが、「～てもらう」文よりも感謝表現との共起性が強い傾向であると見られるが、この要因について、「～ていただく」文を通し、行為の与え手と受け手

との関係を明確にしている点が挙げられる。また、道案内の場面において、(8①a)は話し手自身が直接関わらない行為であるにも関わらず、「～てもらう」系を用いているが、(8①b)では話し手自身も「右に曲がる」行為に直接関与しており、〈依頼・命令〉の発話機能に近い働きがあると想定できる。

3.3. 複文レベルにおける「～てくれる」系と「～てもらう」系

(9)複文レベルにおける互換性のある用例

- a. 現地にいる事情通の日本人が説明してくれた。
- b. 現地にいる事情通の日本人に説明してもらった。

(例(9a)は『BCCWJ』)

例(9)は、「現地にいる事情通の日本人が説明した」という事態に対して、「～てくれる」系「～てもらう」系でも同じ事態を表していると思われ、互換性のある用例である。

(10)複文レベルにおける互換性のない用例

- ①a. 助けを呼びに行ってくれと彼に頼んだのです。
- b. #助けを呼びに行ってもらえと彼に頼んだのです。

(例(10①a)は『BCCWJ』)

- ②a. 留学生にとっても日本人学生にとっても、自然が教えてくれる異文化体験だった。
- b. *留学生にとっても日本人学生にとっても、自然に教えてもらう異文化体験だった。

(例(10②)は例(2)を再掲)

例(10①a)では「～てくれる」系を引用節で表し、「彼が行く」ことを依頼した内容を叙述する文であるが、言い換え文では「第三者に行ってもらう」ことを依頼した内容となり互換性のない例である。例(10②a)のように無情物である「自然」が「～てくれる」系の主格に位置されることはあるが、「～てもらう」系の与格に言い換えることができないことが分った。これについて「～てくれる」系は、話し手が主格をどう見ているかの判断を伺うことができる働きがある。

4. おわりに

本稿は「～てくれる」系と「～てもらう」系の使い分けについて、両表現の互換性というアプローチからの考察を試みた。両表現が文構造において表れる位置によって、単文レベル、重文レベル、複文レベルに分類し、それぞれの互換性の有無について実際の用例を用いながら分析を行った。

以上の分析を通して、今まで依頼表現における使い分けなど、狭い範囲に限定され捉えられてきた「～てくれる」系と「～てもらう」系の使い分けの要因について文構造のレベルと、発話機能という役割の観点から明確にすることができた。今後、さらに多様な場面における用例を収集するため、他のコーパスやドラマなどを活用した計量的な分析は今後の課題としたい。

注

- (1)ミーイズム(meism)とは、「自分の幸福や満足を求めるだけで他には関心を払わない考え方。自己中心主義(小学館編(2010)『デジタル大辞泉』)」である。
- (2)「丁寧」について日本語母語話者へのアンケート調査結果を見ると、敬語として相手を敬う気持ちを表すこと以外に、動作を慎重に行う気持ちを表すことの意味を持つ時もある(小野他 2013)。このような指摘から、「～ていただく」が「～てくださる」より丁寧に思われるとの判断判断が、どちらの意味に該当するかの判断が個人差によるものであることが分かった。
- (3) (i) アルバイト、応募して下さってありがとうございます。
(ii) *アルバイト、応募して下さってすみません。(原田 2007:125)
原田(2007)では上記の例(ii)で「すみません」が用いられることができないため、非文として判断している。その理由として、「～てくれる」系の話し手には「聞き手が自発的に応募してくれたことへの謝意があるが、話し手から応募するように依頼したわけではなく、そのために『借り』の意識はない(ibid.125)」とされている。しかし、「応募する」こと自体応募するように誰かが働きかけなければ「応募する」ことはできない。つまり、「～てくださる」文における感謝・謝罪表現の共起性の差について「聞き手の自発性」との関連性は再考の余地がある。

参考文献

- 石山哲也 (2008) 「『～てくれる』と『～てもらう』の使用条件に関する一考察—『～てくれる』『～てもらう』が過去を表す場合の互換性を中心に—」『日本学研究』23 韓国壇國大学校日本研究所 29-49.
- 小野正樹 (2014) 「『ありがとう』と『すみません』に関する一考察」『日本語コミュニケーション研究論集』3 日本語コミュニケーション研究会 35-42.
- 小野正樹・朱ヒョンジュ・許允瑄・山下悠貴乃・赤羽優子・孫思琦・伊藤秀明・デヒピティヤスランジ ディルーシャ・グルミラ アリモヴァ (2013) 「5 言語の“丁寧”の意味・用法と WEB 上のコロケーション分析—日本語・韓国語・中国語・シンハラ語・ドイツ語の分析—」『日本語教育論集』28 筑波大学留学生センター 1-21.
- 金澤裕之 (2007) 「『～てくださる』と『～ていただく』について」『日本語の研究』3-2 日本語学会 47-53.
- 熊田道子 (2001) 「待遇意識からみた『～てくれる』系表現と『～てもらう』系表現—恩恵の与え手が恩恵行為を行うことに対する配慮意識を中心に—」『国語学研究と資料』24 国語学研究と資料の会 15-28.
- 久野暲 (1987[1978]) 『談話の文法』 第6版[初版] 大修館書店 5-124.
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の文法』 大修館書店.
- 朱炫姝 (2014) 「情報構造の観点から見た授受表現と格情報について」『日本語学会春季大会予稿集』日本語学会 71-78.
- (2014) 「日本語授受表現における語用論的考察—発話機能の観点から—」『中日韓言語文化研究』 中国大連大学.
- 小学館 編 (2010) 『デジタル大辞泉』 小学館.

- 原田登美 (2007) 「日本語会話における<授受表現>の使用実態とポライトネス・ストラテジー」『言語と文化』11 甲南大学国際言語文化センター 117-138.
- 堀口純子 (1987) 「『～テクレル』『～テモラウ』の互換性とムード的意味」『日本語学』6-4 明治書院 59-72.
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版.
- 山田敏弘 (2002) 「『もらおう』と『くれる』はどうちがう？」『日本語学』21-14 明治書院, 49
- (2004) 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらおう」の文法—』明治書院
- 山本裕子 (2002) 「『～テモラウ』の機能について—『～テクレル』と対比して—」『名古屋女子大学紀要』48(人・社) 名古屋女子大学 263-276.

例文出典

国立国語研究所 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

<http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj>, 2013年10月～参照

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のオンライン検索システム 『NINJAL-LWP for BCCWJ』

<<http://nlb.ninjal.ac.jp>>, 2013年10月～参照

(朱炫姝、筑波大学大学院人文社会科学部研究科博士後期課程、murasakiju@yahoo.co.jp)